

# 国際光年シンポジウム

## 国際科学映像祭での国際光年の取り組み

波田野聡美（国立天文台／第6回国際科学映像祭事務局）

### 1. はじめに

2015年8月1日（土）から9月30日（水）の計61日間、国際科学映像祭が開催されました。今年度のテーマは、国際光年にちなんで「光」。天文学や光学のみならず、光はさまざまな分野の科学に関わりが深いものです。第6回科学映像祭では、この「光」をテーマに、多様な視点から制作された科学映像を紹介しました。

今回は、映像祭の中で、特に光年の取り組みとして行った2つのイベントについて報告します。（図1 2015年度ポスター）

なお国際科学映像祭全体については、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://image.sci-fest.net/>

※注 2016年4月より <http://ifsv.org/> に  
移転予定



図1 2015年度国際科学映像祭ポスター

### 2. 国際科学映像祭

国際科学映像祭は、良質な科学映像コンテンツを広く国内外に紹介し、多くの人々に見

ていただく機会を提供する、科学映像の祭典です。2009年にプレイベント、さらに、翌2010年から今年2015年までで6回の開催を行ってきました。

運営体制としては、主催が第6回国際科学映像祭実行委員会、共催は大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台・第7回東京国際科学フェスティバル実行委員会となり、国立研究開発法人・宇宙航空研究開発機構・日本プラネタリウム協議会・公益社団法人映像文化製作者連盟に後援をいただきました。また、全国の科学館・博物館・プラネタリウム・関連企業など69団体より、協力をいただいています。

実行委員会主催のコアプログラムとしては、スタンプラリー、キックオフイベント、ドームフェスタを開催しました。また、全国49の協力施設・団体では、スタンプラリー協力や科学映像の上映が行われました。

この3つのプログラムの中で、ドームフェスタはもっとも大規模なイベントとなります。

ドームフェスタ2015は福島県郡山市にある郡山市ふれあい科学館にて、開催されました。今年度は、プレイベントより、毎年ご参加いただいている、Carter Emmart氏（アメリカ自然史博物館ヘイデンプラネタリウム可視化ディレクター）、Lars Lindberg Christensen氏（ヨーロッパ南天天文台）のお二人が来日、招待講演をしてくださいました。他にも多数の海外からの参加者があり、まさに「国際」科学映像祭の名にふさわしい会となりました。

上映作品には、世界各地から合計38作品ものエントリーがありました。

ここからは、光年をテーマとして開催した2015年の国際科学映像祭ドームフェスタで行われた2つの取り組みについてご紹介していきます。

## 2.1 国際光年 IYL 特別セッション

国際光年2015を記念して、光害について考える特別セッションを開催しました。企画は国際天文学連合国際普及室(OAO)、モデレーターは、Sze-leung Cheung (OAO)が勤めました。セッションのはじめに上映した「Losing the Dark」(ルージング・ザ・ダーク)は、国際ダークスカイ協会(IDA)とLoch Ness Productionsが制作した、光害啓発のためのプラネタリウムショーです。光害で引き起こされるエネルギー問題や生態系への影響などの問題をわかりやすく説明し、簡単に取り組める光害対策を紹介しました。上映後には、原案者のConstance Walkerさん(アメリカ国立光学天文台/IDA役員)と制作者のCarolyn Collins Petersenさん(Loch Ness Productions)とスカイプでつなぎIDA東京の代表を務める越智信彰さん(東洋大学)を会場にお招きして、トークセッションを行いました。制作の意図や、光害の天文学や生態系への影響や対策、日本での光害の現状など、それぞれの立場からお話いただきました。

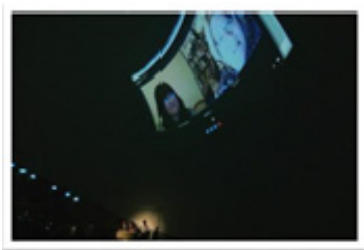


図2 トークセッションの様子

## 2.2 ショートプログラムコンテスト

国際科学映像祭実行委員会では、良質な科学映像を作成するクリエイターの育成・発掘を

目的としてショートプログラムコンテストを行っています。今年度のテーマは、「光」。今年は国内外から、平面映像、ドーム映像合わせて9作品の応募作品がありました。(平面3、ドーム6)受賞作はWEBに掲載されています。その中から、震災特別賞と会場特別賞を受賞された、三浦昭さんの作品をご覧くださいました。本来ドーム作品ですが、今回の報告のために平面版を作ってくださいました。この作品は様々な波長の光で見た宇宙をテーマとした作品で、まさに光年にふさわしいものとなっていました。(図3 作品上映)

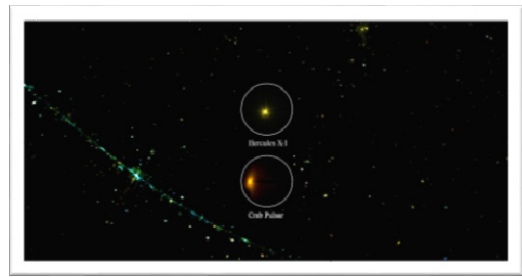


図3 三浦昭 “光あやなす宇宙”

## 3. おわりに

大変残念なことですが、2016年度より、国立天文台が共催として加わることができなくなりました。そこで、鷹実行委員長他、実行委員会を立ち上げ当初より牽引してくださった皆様が、2016年度の開催に向けてご尽力くださっています。皆様にも、ぜひ、来年度の開催にご助力いただければと思います。

これからの国際科学映像祭にもどうぞご期待ください。



波田野 聡美